

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・理科の授業についての夏季研修を基に、実験方法を考えさせたり、実験の見通しをもたせたりしながら指導をすることができた。

(2) 課題

- ・全体的に知識の定着が不十分である。
- ・実験結果から分かることを説明・記述したり、共通点や相違点を見付けたりすることに課題がある。
- ・応用問題で苦戦する傾向が強い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	校内平均正答率は、目標値を下回った。 観点別正答率では、活用と思考・判断・表現が目標値を下回っている。		
第5学年	校内平均正答率は、目標値と同程度である。 観点別正答率でもすべての項目で目標値と同程度であった。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。	
第6学年	校内平均正答率は、目標値を下回っている。 観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに全国平均をやや下回っている。知識・技能では、目標値を4.2ポイント下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値を下回った。昆虫の体のつくりや光の性質に関して、知識の定着に課題がある。	校内平均正答率は、目標値と比べ、6.4ポイント下回っている。共通点や差異点を見出したり、説明したりする問題での誤答が多かった。	校内平均正答率は、目標値と同程度であるが、記述式の問題の正答率が低かった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、第5学年で目標値と同程度であった。	校内平均正答率は第5学年、第6学年ともに、目標値を下	校内平均正答率は、第5学年では目標値と同程度、第6学

物の体積と温度、自然の中の水に関して、知識の定着に課題がある。 第6学年では、目標値を大きく下回った。どの分野においても知識の定着に課題がある。	回った。 記述式の問題の正答率が低かった。	年では、目標値を下回った。 どちらの学年ともに記述式の問題の正答率が低かった。
---	--------------------------	--

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実験は少人数で行い、一人ひとりが実験道具を使う時間を確保できるようにしたり、知識・技能を身に付けたりできるようにする。 ・実験は、日常生活と関連付け、実感を伴わせるようにする。 ・定期的に理科用語の復習を行うなどして、基本的な知識の定着を図る。 ・ドリルパークなども活用し、理科用語を正しく理解できるようにする。	・3年生には、学習の流れやノートの書き方を丁寧に指導する。 ・結果と考察が混同しないよう、考察の書き方を丁寧に指導する。 ・予想を基にして実験の方法を考えさせたり、結果の見通しをもたせたりすることで、科学的に考える力を付けさせる。 ・考察を交流させることで、記述の仕方を理解させたり、他の人の考えに触れさせたりすることで、思考を深めていく。	・植物や昆虫を実際に育て、日々の変化を授業内外で取り上げることで、学習意欲を高める。 ・主体的に探究する態度を育むために、児童とともに学習問題を作る時間を充実させる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実験は少人数で行い、一人ひとりが実験道具を使う時間を確保できるようにしたり、知識・技能を身に付けたりできるようにする。 ・実験は、日常生活と関連付け、実感を伴わせるようにする。 ・考察に書くべき内容を丁寧に指導することで、学んだことを自分の言葉で説明する力を高められるようにする。 ・ドリルパークなども活用し、理科用語を正しく理解できるようにする。 ・ICTなどを活用し、直接見ることができない現象の映像などを見て、原理を理解させる。	・学習問題に対する予想を考える際は、既習内容や生活経験を踏まえて行わせることで、考える力を伸ばしていく。 ・実験の方法を考えさせたり、結果の見通しをもたせたりすることで、科学的に考える力をつけていく。 ・考察を交流させることで、友達のよりよい考えを理解したり、共通点、相違点から妥当な結論を導き出したりすることで、思考を深めていく。	・写真や映像、実物を用意することで、学習内容に興味をもたせる。 ・主体的に探究する態度を育むために、児童とともに学習問題を作る時間を充実させる。